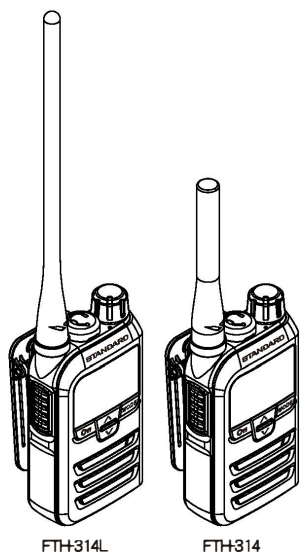




特定小電力トランシーバー FTH-314/-314L 取扱説明書

総務省技術基準適合品

免許不要

単3形電池 1本動作

47チャンネル

交差通信用 20チャンネル
中継通信用 27チャンネル

防水構造

耐衝撃防落形 IP65

耐腐防食形 IP67

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません。

お買い上げいただき、ありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

販売元：八重洲無線株式会社 国内営業部
開発製造：パナテックススタンダードLMR合同会社



© 2017 パナテックススタンダードLMR合同会社
無断転載・複写を禁ず
Printed in Philippines

付属品

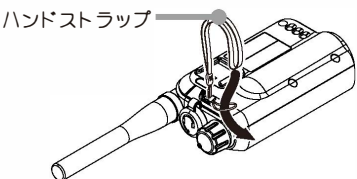
ご使用になる前に付属品をご確認ください。



ベルトフック

ハンドストラップの取り付け

ハンドストラップは必要に応じて下記のように取り付けてください。

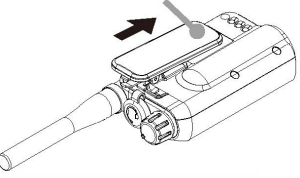


【補足】 丈夫な市販のハンドストラップを使用してください。

ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをレールにあわせカチッと音がるまで、確実にスライします。

ベルトクリップ



【補足】 ベルトクリップを外すときは、指を使わずにドライバー等でロックレバーを上げながらスライして外します。指を使うと爪をはがしてケガの原因になることがあります。

電池の入れかた

① ロックバーを矢印方向にスライドし、ロックを解除してフタを開けます。

② オプションのニッケル水素電池（FNB-135）または市販の単3形アルカリ乾電池をマイナス（-）から入れます。
電池の極性（+）（-）を注意してください。

③ フタを「カチッ」と音がるまで確実に押し込みロックします。

【注意】 防水性能を維持するため、フタをロックする前に防水パッキンのキズ、劣化、外れ、汚れ等がないことを確認してください。

バッテリーインジケータの設定

初期値は市販のアルカリ乾電池を使用する「AL」に設定されていますが、オプションのFNB-135を使用する場合は「nH」に設定します。

- ① [音量ツマミ]を左にまわしきり電源を切ります。
- ② [MODE]を押しながら[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れます。
セットメニューの“cb-xx”が表示されます。
- ③ [MODE]を押して、“bt-xx”を選択します。
- ④ [▲]または[▼]を押して、使用する電池を選択します。
アルカリ乾電池の場合：“AL”
FNB-135の場合：“nH”
- ⑤ [通話(PTT)]を押します。
設定を確定し、セットメニューを終了します。

電池の使用時間と注意事項

電池の持続時間を延ばすには

使用できる時間の目安は次のとおりです。またスーパーセーブ機能（セットメニュー“bs-xx”参照）を使用すると、さらに電池の持続時間を延ばすことができます。

電池の種類	スーパーセーブ機能 OFF	スーパーセーブ機能 ON
単3形アルカリ乾電池（日本製の場合）	約30時間	約33時間
ニッケル水素電池（FNB-135）	約33時間	約36時間

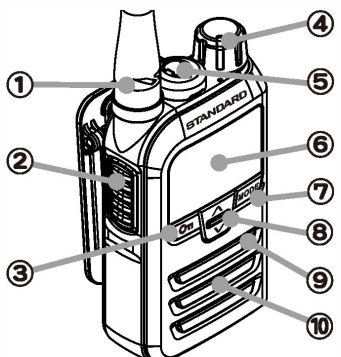
電池残量アイコン表示	
電池残量アイコン表示	
電池残量アイコン表示	
電池残量アイコン表示	
電池残量アイコン表示	

【補足】 ○ 10秒送信、10秒受信、80秒待機が測定の条件になります。上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や電圧の温度などによって異なります。
○ スーパーセーブ機能を使用すると、受信中連続して起ることがあります。

使用上の注意

- 市販の単3形アルカリ乾電池とオプションのニッケル水素電池（FNB-135）について
- 使用せず保管しておく方がむしろわずかながら電池の劣化が速みます。
 - 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池（FNB-135）またはアルカリ乾電池を取り外してください。
 - ときどき電池ケースの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。
 - 端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
 - 電池を交換するときは、電源を切ってください。
 - ニッケル水素電池（FNB-135）または市販の単3形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。
- オプションのニッケル水素電池（FNB-135）について
- 当社指定以外の充電器やACアダプターを使用しないでください。火災や故障の原因になります。
 - 初めて使用するときは、必ず充電してください。
 - 充電のしかたは、「急速充電器セットVAC-68」の取扱説明書をご覧ください。
 - 充電電圧を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
 - 長期間保管した場合は電池容量が低下していることがあります。必ず充電してから使用してください。

各部の名前と機能



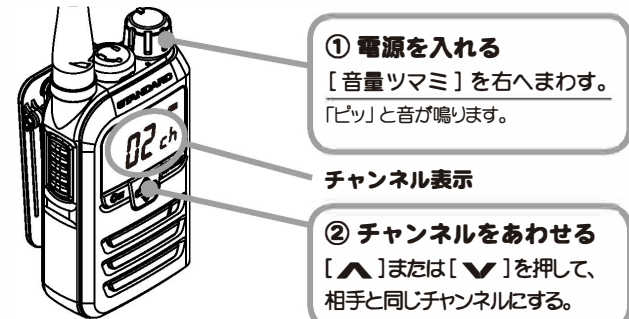
- ① アンテナ
電波法上、取り外しできない構造になっています。
- ② 通話(PTT)スイッチ
押している間は通話、放す待ち受けの状態になります。
- ③ ロックキー
約1秒長押しするとキーロックが動作します。再度約1秒長押しするとキーロックを解除します。
- ④ 電源スイッチ / 音量ツマミ
右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチッと音がるまで左へまわし切ると電源が切れます。
- ⑤ MIC/SP端子
オプションのスピーカー / マイクホンなどを接続する端子です。

【注意】 オプションを使用しないときに、キャップをしっかり付けないと防水にはなりません。

基本的な通話のしかた（ノーマルモード）

本機には、周囲の状況に応じて選べる3つの通話方法（ノーマルモード、グループモード、秘話モード）があります。

通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは基本となるノーマルモードの通話方法を説明します。



③ 音量を調節する
[音量ツマミ]を12時の位置にあわせ、相手の音声を受信しているときに音量を調節する。

④ 押しながら話す
[通話(PTT)]を押しながらマイクに向かって話します。
・ [通話(PTT)]を押すと「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに「E_r」と「通話」が点灯してから話をしてください。
・ [通話(PTT)]を放すと、待ち受け状態になり相手の音声を聞くことができます。

マイク

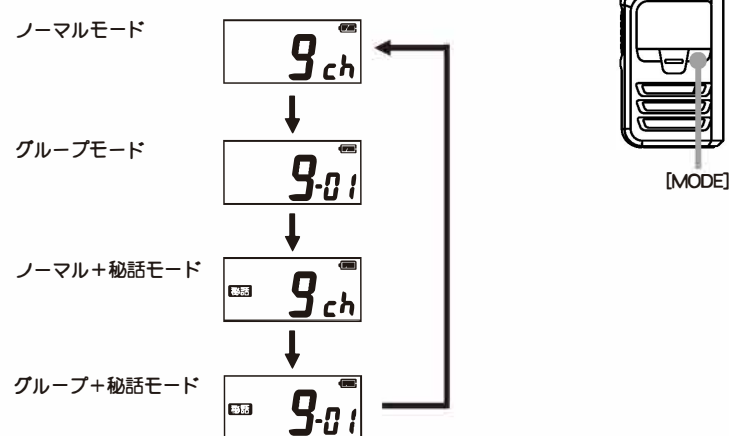
通話モードの切り替えかた

通話を行うモード（通話モード）として、次の3通りの方法があります。周囲の状況に応じて使い分けてください。

- ノーマルモード
 - ⇒ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。
- グループモード
 - ⇒ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき。
 - ⇒ チャンネル番号とグループコードが一致すると通話ができます。
- 秘話モード
 - ⇒ 他人に話を聞かれないとき。

通話モードを切り替える

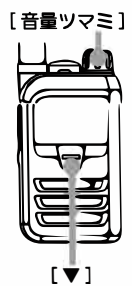
[MODE]を押すたびにモードが切り替わる。
初期値はノーマルモードに設定されています。



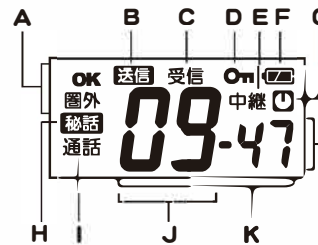
一時的にモニターをする

スケルチ機能をOFFにして、受信信号の状態を一時的にモニターする機能です。

- モニターにする
 - ① [音量ツマミ]を左にまわしきり、電源を切ります。
 - ② [▼]を押しながら[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れます。
- モニターを解除する
一度電源を切り、再度[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れます。



⑥ ディスプレイ



A. コールバック使用時に表示 OK... 通話可能 圏外... 通話不可能	F. 電池残量表示
B. 送信時に表示	G. オートパワーセーブ表示 オート/パワーセーブをONにする时表示
C. 受信時に表示	H. 秘話モード時に表示
D. ロック表示	I. 通話中表示
E. 中継チャンネル時に表示	J. チャンネル番号表示
	K. セットメニューの表示
	L. グループコード表示

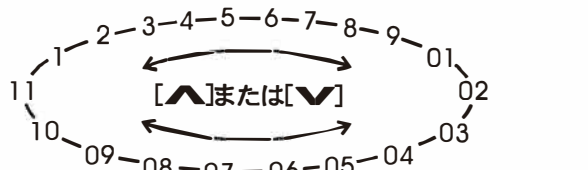
⑦ MODEキー
押すたびに通話モードが切り替わります。

⑧ ▲(アップ)/▼(ダウン)キー
押すたびにチャンネルがアップ/ダウンします。

⑨ マイク

⑩ スピーカー

【補足】 ○ [▲]または[▼]を押すと、チャンネルは下記のように変わります。



- 【注意】 ○ 電源を入れるとディスプレイに「Er」(エラー)が表示された場合は、外部マイクホンが「正しく接続されていない」または「スピーカー（イヤホン）が断線している」可能性があります。
通話する前に「接続したスピーカーマイクホンやタイピンマイクのねじ込み式プラグが確実に締め付けられているか」または「スピーカー（イヤホン）が断線していないか」点検をしてください（セットメニュー SP-xx 参照）。
○ 相手の声が途切れて聞こえるときは、モニター機能を使用すると途切れなくなります（「一時的にモニターをする」参照）。
○ 連続して通話できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに「通話」が点灯します。
3分間連続して通話し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する30秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウンが表示され、送信が停止する10秒前には「ピピッ」と警告音が鳴ります。また、送信が停止した場合、その後の2秒間は[通話(PTT)]を押しても「ブープブープ」と警告音が鳴り送信できません。
○ 他人の信号を受信しているときは、送信できません。
ディスプレイに「受信」が点灯中、[通話(PTT)]を押しても「ブープブープ...」と警告音が鳴り送信できません。ただし「通話」が点灯している間に[通話(PTT)]を押すと送信します。

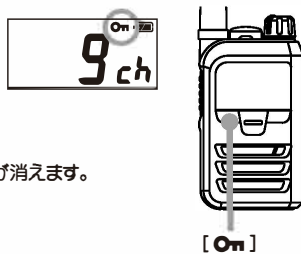


キーをロックする

誤ってキー（[▲]、[▼]、[MODE]）に触れても設定が変わらない、さらにディスプレイの表示をしない設定にすることが出来ます。
※：電池残量アイコンは表示されます。

キーロックする

[ON]を約1秒以上押します。
「ピピッ」と鳴ってキーがロックされ、「ON」が点灯します。



■キーロックを解除する
再度[ON]を約1秒以上押します。
「ブツ」と鳴ってキーのロックが解除され、「ON」が消えます。

- 【補足】 セットメニューの“hd-xx”を“ON”に設定すると、[ON]キーを約1秒以上押したときに、キーロックと共にディスプレイを非表示にすることが出来ます。
- ① [音量ツマミ]を左にまわしきり電源を切ります。
 - ② [MODE]を押しながら[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れます。
セットメニューの“cb-xx”が表示されます。
 - ③ [MODE]を押して、“hd-xx”を選択します。
 - ④ [▲]または[▼]を押して、“ON”に選択します。
 - ⑤ [通話(PTT)]を押します。
設定を確定し、セットメニューを終了します。

キーロック及びディスプレイを非表示にする

セットメニューの“hd-xx”を設定しなくても、下記の方法でキーロックとディスプレイを非表示にすることが出来ます。

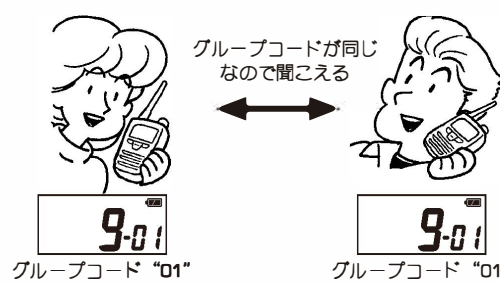
- ① [音量ツマミ]を左にまわしきり電源を切ります。
- ② [ON]を押しながら[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れます。
「ON」が点灯してキーがロックされ、約2秒後にディスプレイの表示が消えます。

■キーロックとディスプレイ非表示を解除する
再度[ON]を約1秒以上押します。
「ブツ」と鳴ってキーのロックが解除されて「ON」が消え、ディスプレイが表示されます。

【補足】 電源を切っても、キーロックとディスプレイ非表示を解除することが出来ます。

グループモード

「同じチャンネルで、他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループコードに設定しておく仲間同士の音声だけが聞こえます。



グループコード「01」

グループコード「01」

× グループコードが違うので聞こえない ×

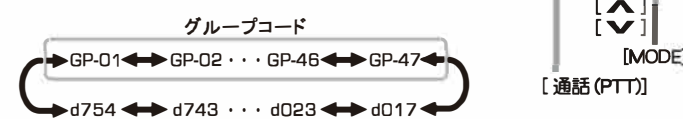


グループコード「38」

設定のしかた

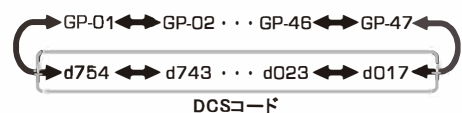
運用する前に仲間同士で同じグループコードに設定します。
初期値は「01」に設定されています。

- ① [MODE]を押してグループモードにします。
現在設定しているグループコードが表示されます。
- ② [MODE]を押しながら[▲]を押します。
グループコードが増えます。
- ③ [▲]または[▼]を押してグループコードを選びます。
GP-01 ~ GP-47 (47通り) から選択します。



④ [通話(PTT)]を押します。
設定が終了します。

【補足】 グループコード(47種類)が不足した時など、グループコードに替えて、108種類のDCSコード(d017 ~ d754)を使用することが出来ます。



【注意】 グループコードが38通りの旧機種と通話する場合は、GP-1 ~ GP-38以内に設定してください。それ以外のグループコードを使用すると通話できなくなります。

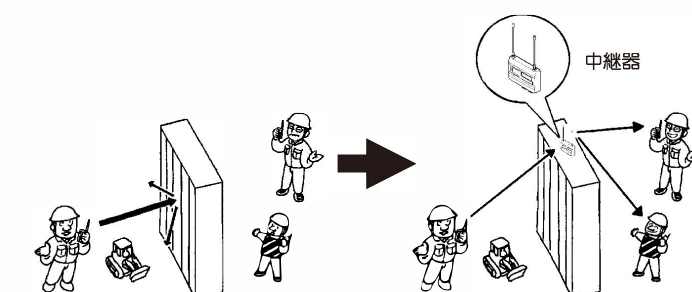
通話のしかた

“基本的な通話のしかた”と同様に行います。

【補足】 他人の通話が聞こえる場合は、グループコードを変更してください。

中継機能 ～通話距離をのばすには～

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、当社対応の中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。
なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部にお問い合わせください。

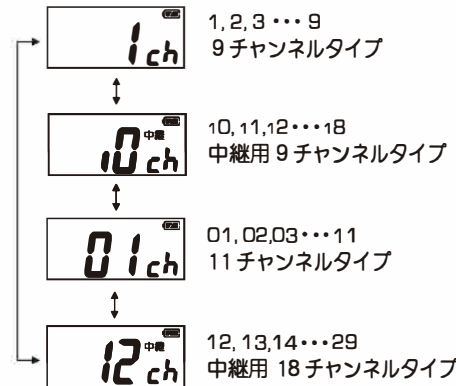


- 【注意】 中継器を介した場合は、下記の機能を使用することができません。
- ・ コールバック機能
 - ・ セレコール機能
 - ・ オートチャンネルセレクト機能
 - ・ クローン機能

中継機能を設定する

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル（合計27チャンネル）が追加されます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。

- ① [音量ツマミ]を左にまわしきり、電源を切ります。
- ② [▲]を押しながら[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
- ③ [▲]または[▼]を押すたびに、チャンネル番号が変わります。



■設定を解除する

- ① [音量ツマミ]を左にまわしきり電源を切ります。
- ② [▲]を押しながら音量ツマミを右にまわし、電源を入れます。

通話のしかた

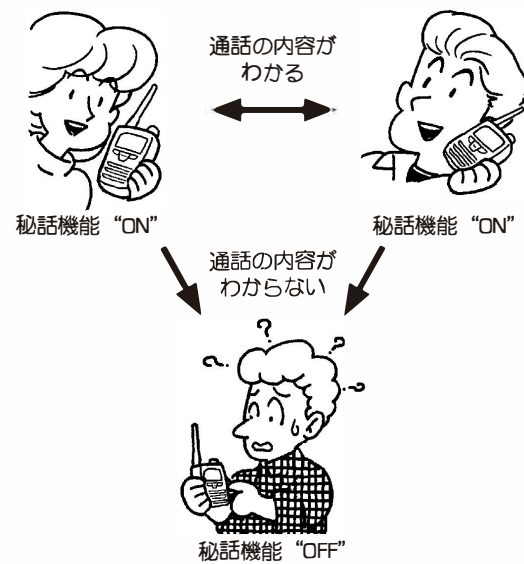
① [▲]または[▼]を押して、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせませう。

② “基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

- 【補足】 ○ グループモードを使用することが出来ます（中継器と同じグループコードにあわせてください）。
○ [通話(PTT)]を押すと「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに「通話」が点灯します。「通話」が点灯中に話をするとき、お互いの音が途切れず交信することが出来ます。
交信中「通話」が消灯したら、再度[通話(PTT)]を押して「通話」が点灯してから話をしてください。
○ 当社指定の中継器のみ使用可能です。

秘話モード

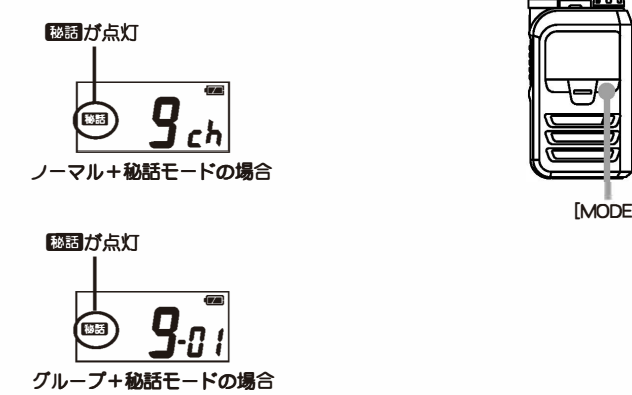
秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。
秘話モードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することが出来ます。



- 【注意】 ○ 仲間同士以外でも、同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
○ 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。
○ FTH-314/-314L以外のトランシーバーと通話すると、音色が異なる場合があります。

秘話モードに切り替える

“秘話”が点灯するまで、[MODE]を何度か押します。



ノーマル+秘話モードの場合

グループ+秘話モードの場合

通話のしかた

“基本的な通話のしかた”と同様に行います。

